

40歳以上の症例において AMH が低値であっても卵巣刺激は有効である

IVF なんばクリニック

佃笑美 佐藤学 赤松芳恵 橋本周 前沢忠志 姫野隆雄 大西洋子 伊藤啓二郎
中岡義晴 井上朋子 森本義晴

【目的】 40歳以上の不妊患者の治療方針決定における AMH 値との関連を検討した。

【方法】 2010-11 年実施の 40 歳以上の刺激周期(SC):274、自然又は低刺激周期(NC):1082 の計 1356 周期を対象とした。AMH 10 pmol/L 未満と 10 pmol/L 以上にわけ、年齢と刺激方法別に成績を比較した。

【結果】AMH 10 未満の SC と NC とで採卵数と受精卵数を比較すると 40-41 歳 (7.6 vs. 1.9、4.6 vs. 1.2) と 42-44 歳 (5.8 vs. 1.7、3.2 vs. 1.1) 共に SC で有意に多かった($p<0.001$)。一方、妊娠率は SC と NC 間で、40-41 歳、42-44 歳、どちらの年齢区でも差はなかった。また、45 歳以上では各項目で差はなかった。SC の採卵あたりの移植回数 (1.1) は NC (0.4) に比べ有意に多かった($p<0.001$)。

AMH10 以上の SC と NC とで採卵数と受精卵数を比較すると 40-41 歳 (11.2 vs. 2.7、6.4 vs. 1.4)、42-44 歳 (11.1 vs. 2.5、5.9 vs. 1.5) および 45 歳以上 (12.4 vs. 1.9、6.4 vs. 1.0) で SC が有意に多かった($p<0.001$)。一方、妊娠率は SC と NC 間で、40-41 歳、42-44 歳および 45 歳以上の全ての年齢区で差はなかった。SC の採卵あたりの移植回数 (1.4) は NC (0.5) に比べ有意に多かった($p<0.001$)。

【考察】 通常、40 歳以上で AMH が低値の場合、NC を選択する事が一般的であるが、本実験の結果より、SC を選択した場合、NC に比べ治療に用いる胚数が増加し、その結果、移植回数が増えた。一方、妊娠率には差がないことから、10 pmol/L 未満の場合でも SC は NC より効率的であることが示唆された。